

愛娘への手紙 貢姫宛て 錫島直正書簡 料紙一覧

愛娘宛ての私信だからこそ内容や、自筆ならではの筆跡とあわせて、木版摺の美しい絵柄の料紙も見どころのひとつです。196通の書簡には、計42種類の料紙が使用されています。



- 各表記は「通し番号／料紙分類名称／料紙が使用された手紙の数」を示す。
- 資料集に収録された196通(錫島家伝來の191通および磯濱伝來の5通)を対象とした。
- 順番は、使用された推定年代の順(初出が早い順)。
- 手紙の発信地は、佐賀166通／江戸25通／旅中3通／不明2通。
- ★印のついている料紙は、榛原またはその系列店製とみられるもの。
- 水色の枠線で囲んだものは、同デザインを用いた一筆箋を販売中のもの。

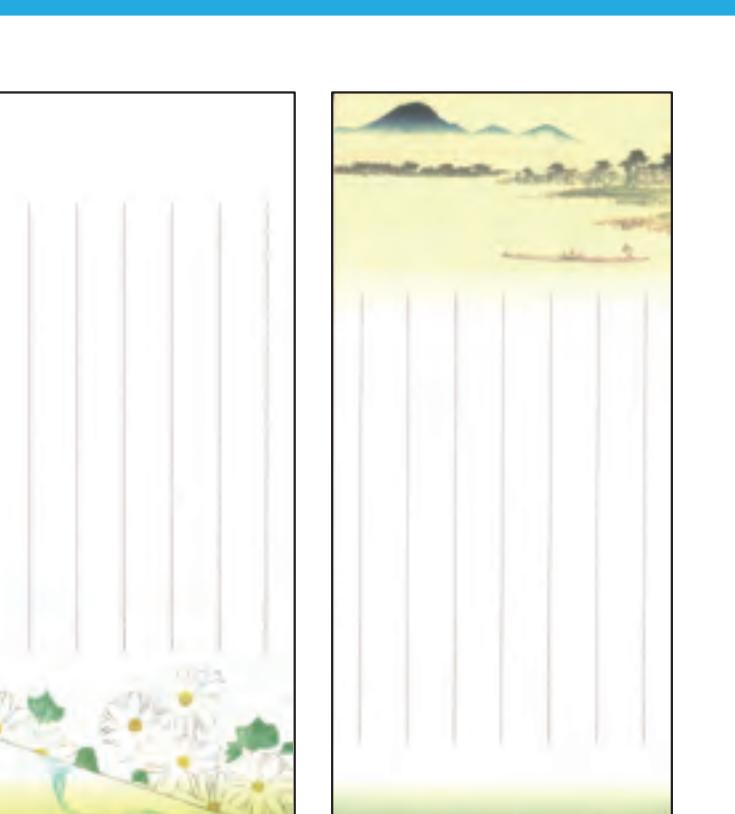
直正公 お気に入りの料紙

料紙の絵柄は木版摺で、当時の市販品の書簡箋巻紙です。巻紙ですので、文章を書き終えた箇所で裁断して用いています。うち少なくとも10種類(★印のもの)は江戸の紙商「榛原(はいばら)」または「金花堂」など系列店のものとみられます。また、手紙の中で直正公は「封筒の残りが少なくなつて困っていますので、金花堂の良さそうな封筒を送ってください」と国元の佐賀から江戸の貢姫に頼んでいます。

榛原は文化3年(1806)創業で、現在も東京日本橋で続いています。

また、無地の料紙もありますが、⑨の折紙は年賀状に、⑯は弔事に関する内容の手紙にのみ使用されているように、用途は限定的でした。

42種類の料紙のうち、もっとも多く使用されたものは「㉝霞に紫雲」と「㉜千代見草に流水」で、それぞれ15通送られています。貢姫は、内容はもちろんのこと、絵柄も楽しみに父からの手紙を巻き広げたことでしょう。



このうち、9種類の料紙のデザインを用いた一筆箋を作りました(1冊300円で販売中)大切な人へ、久しく会っていない人へ、贈り物と一緒に…手紙を送ってみませんか?詳しくは、受付のスタッフにお尋ねください。